

第1回推進会議の意見及び対応一覧

	ご意見	対応
(1)	創業・起業支援の施策について、「持続性がない」「後継者不足」という課題について、第2期総合戦略では対応を考えていくべきである。	創業・起業支援については、第1期総合戦略から「住民起業支援事業」を位置づけています。 本事業を進める中で、「起業した後の支援」についても検討を進めていきます。 また、起業・創業とは別に、「やってみたい」を実現できるまちとして、若者への支援について、「学生まちづくり活動支援事業」を位置づけ取り組んでいきます。
(2)	大学が多くあるまちとしての強みを活かすため、学生の起業のスタートアップの支援等、意欲ある若者の支援に力を入れていって欲しい。	
(3)	基本目標2の「子育て支援」については、国も出生率を上げるため力を入れているし、日本一若いまちである本市の特性を考えると、日本のモデルケースになる子育て支援に力を入れていただきたい。	子育て支援については、新たに、子育て中の保護者を対象に、育児から離れる時間を確保することを目的とした一時的に子どもを預かる「子ども預かり事業」を位置づけています。 その他の施策についても、現在策定中の「第2期子ども・子育て支援事業計画」の中で、取り組んでいきます。
(4)	ジブリパークについては、国内のみならず、海外からも多くの観光客が訪れるビジネスチャンスだと思う。「稼ぐ」視点がこれから重要なのではないかと。	「観光交流」については、「地域資源を有機的に結びつける」という視点を持っており、ジブリパークについても、本市の地域資源の一つと捉え、市内の観光交流が促進されるよう、関係機関と連携し、取り組んでいきます。
(5)	ジブリパークに関しては、「ジブリを感じられるまち」にしていき、藤が丘からモリコロパークの往復だけでなく、長久手市にも立ち寄ってもらえるような仕組みが必要だと考える。	

	ご意見	対応
(6)	子育て中の方が、長久手市内で働ける場所の確保は、子育てしやすいまちの実現のためには、今後必要であると考えます。	子育て中の方の長久手市内で働ける場所の確保については、具体的な事業を本戦略に位置づけていません。しかし、第2期総合戦略では、「シェアリングエコノミー」という仕組みを導入する予定であり、「シェア」という観点で、働く場についても検討していきたいと考えています。
(7)	子どもの預け先の拡充は必要で、一人目の子どもの育休中に、二人目の子どもができて、預けられないといった課題もある。出生率を上げるには、二人目の子どもを躊躇なく産めるような環境整備が必要なのではないかと。公立の保育園の受け入れについては、拡充されてきているが、保育園以外にも預け先の選択肢が広がると良い。	子どもの預け先の拡充については、新たに「子ども預かり事業」を位置づけています。また、本事業の中で、保護者の心のケアについても、取り組んでいきます。
(8)	子育て中の方をどう支えるか、心の支援といった視点でも考える必要がある。	
(9)	長久手市は「暮らしやすいまち」であると思うが、地価が上がっているため、住みたくても住み続けられない若者も多いと聞く。若い世代の人口流出を食い止めるための施策も必要だと考える。	若い世代の人口流出を抑制するための直接的な事業を本戦略に位置づけていません。しかし、学生をはじめとした若者が本市に愛着を持っていただけるよう、「学生まちづくり活動支援事業」等の取組を通して、本市に住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていきます。
(10)	外出促進については、高齢者のみならず、働きながら子育てしている方の送迎問題や、障がいのある方の移動手段など、それぞれの状況に合った移動手段について考えていく必要がある。	外出の促進については、新たに「公共交通ネットワーク事業」を位置づけています。本事業を進める中で、これからの社会環境に応じた移動手段について検討していきます。
(11)	災害等いざという時に必要な地域の助け合いは、隣近所や自治会といった小さい単位での助け合いであるため、その範囲でのつながりをどうつくっていくか、考える必要がある。	いざという時の地域の助け合いについては、基本目標3「市民が支え合うコミュニティをつくる」において、「防災士育成事業」や「自主防災活動支援事業」を位置づけています。また、「シェアリングエコノミー」という仕組みの中でも、地域での助け合いの意識を醸成していきます。